

令和2年度 福井県立大野高等学校全日制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導	<p>a 家庭学習の現状をより正確に把握し、課題学習および自主的・自発的学習を促していく。 目標：生徒の家庭学習内容充実度の目標指数 肯定的評価 60%以上。</p> <p>b 他校の公開授業や各種研修会等に参加して広く情報を共有し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導法を研究・実践していく。 目標：教員の授業力向上の目標指数 肯定的評価 80%以上</p>	<p>a 授業に満足していると答える生徒の割合は高水準を保っている。家庭学習時間も2時間以上と答えた生徒が半数を超えている。これは昨年度と同程度の割合である。さらに、学力向上の取り組みについても、9割以上の保護者が満足しているという回答である。その一方で、「子どもの家庭学習習慣」について身につけていないという回答が3割程度ある。今後も学力向上の取り組みに努めながら、家庭学習習慣の定着を図っていく。</p> <p>b 昨年度までに、公開授業や研究協議会が定着し、積極的に運営されていたが、本年はコロナ禍の影響で縮小して行われざるを得なかった。その一方で、休校中に生徒に向けて作成したオンライン学習動画を教員間で見せ合って意見交換を行ったり、互見授業週間には教科をまたいだ教員のグループを作って意見交換をしたりするなど、教員の授業力向上に努めた。</p>	<p>a 家庭学習時間の増加と学習習慣定着のため、学習課題の質の向上、課題点検の工夫、授業での学習内容の扱い方など、各教科の特性を踏まえながら、量・質ともに適切な学習課題と学習方法の研究を行う。また、家庭との情報交換に努め、学校と家庭がより連携して生徒の学力向上を目指す。</p> <p>b 校内での公開授業や研究協議会の実施を継続しつつ、校外の授業参観や研修会にも積極的に参加して幅広い観点から情報を収集し、教員の指導力向上を図る。</p>
2 生徒指導	<p>a 毎朝の登校指導や毎月の容儀指導、マナーアップ週間の指導、交通安全指導の徹底により、生徒の規範意識の向上に努める。 目標：生徒の規範意識達成の目標指数 肯定的評価 95%以上</p> <p>b 学校祭・委員会活動・部活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。 目標：生徒の生徒会行事や部・サークル活動の目標指数 肯定的評価 90%以上</p>	<p>a 正しい身なりで学校生活を送るように努めたと回答した生徒・保護者は、98%であり、高い意識が見られた。一方で教職員の容儀指導については、積極的に取り組んだ教職員は、79%で前年より10%減少した。容儀指導については、教職員の共通理解を図ることが必要である。</p> <p>b 充実した部活動ができたと回答した生徒は、6年連続で93%を越え、本校の部活動に満足していると回答した保護者も5年連続で90%以上となった。部活動指導を行ったと回答した教職員は79%であり、前年より14%増加した。コロナ禍の状況の中で教職員が部活動等を通して、積極的に生徒を指導していくという意欲が見られた。</p>	<p>a 継続して実施している登下校の交通指導や挨拶指導を効果的かつ充実した活動にする。また、全教職員との共通理解を図るため、研修会などを通じて効果的な指導法について検討するとともに、生徒会を中心にして校則の見直しに取り組む。</p> <p>b 生徒が無理なく充実した学校生活を送ることができるように、学校行事の適正化・効率化に努める。部活動や学校行事を通じて、学校生活に主体的に取り組むことができる生徒の育成に努め、リーダーの育成を図る。生徒が充実した活動ができるように、必要な備品をそろえたり、環境を整えたりして支援する。</p>
3 進路指導	<p>a 進路に係わる全体指導および個人指導の検証と実践を通して、進路目標の早期設定と具体化に努める。 目標：生徒の進路意識高揚の目標指数 肯定的評価 90%以上</p> <p>b 各種研修会・ガイダンス等への参加を促し、進路指導力の向上に努める。 目標：教員の進路意識高揚の目標指数 肯定的評価 90%以上</p>	<p>a 進路目標の早期設定と具体化に関し、「進路意識が向上した」と回答した生徒が91%（昨年比+2%）と前年度より増加した。また本校の進路指導に関する保護者の満足度も90%（昨年比+2%）と増加した。目標指数90%を達成し、例年同様に高い満足度を得られている。次年度100%を目指してさらに内容の検討を行いたい。</p> <p>b 「生徒の進路意識が向上した」と回答した教員が97%（昨年比-3%）と前年度より減少したが、目標指数90%は達成した。また、教員の研修会等への参加率は72%（昨年比-2%）で、昨年よりやや減少した。コロナ禍により、生徒の大学訪問が中止になったことや、教員の研修会が開催されなかったことが減少の原因と考えられる。今後はオンライン研修の活用や研修会の情宣等、指導力の向上に努めたい。</p>	<p>a 生徒の進路目標の早期設定と具体化を行うために、低学年での大学訪問や進路講演会、ガイダンス、保護者対象の進路研修会等、適切な進路情報の提供を行いたい。特に見学や体験が進路意識向上に深く関係しているため、オンラインの活用を含めて内容および方法の検討を行い、充実を図る。</p> <p>b 初年度の大学入学共通テストの分析や情報収集を行い、次年度に向けて対応策や指導方法の検討を行い、生徒の進路実現を図る。</p>

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
<p style="text-align: center;">4 保健管理</p>	<p>a 各種講演会や保健だよりの発行、校内掲示板や大高メールの活用などで啓発活動を充実し、家庭とも連携して生徒の健康・安全に対する意識を向上させる。 目標：生徒の健康管理意識の目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 面談やいじめのアンケートなどを通して、学年会や関係部署と密に連携した教育相談活動を行い、いじめや問題の未然防止と早期発見・早期解決を図る。 目標：生徒の教育相談活動の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 自分の健康に心がけている生徒は全体の94%で前年度とほぼ同じで高い数値である。過年度比較をみると、学年が上がるに従ってその数値も上がる傾向があり、年々意識が向上している。</p> <p>b 相談したいことがあったら、誰かに悩みを相談できそうだと答えた生徒は93%で、前年度より割合が増加し、その中でも十分にできそうである生徒の割合が44%に上がった。学年が上がるに従ってその数値も上がる傾向がある。教職員の教育相談に対する意識も91%と高い水準であり、全教職員体制で生徒の教育相談活動に取り組んでいる姿勢が現れている。</p>	<p>a 生徒・保護者対象の保健だより・各種講演会の内容の充実、保健・環境整備委員会活動の活発化を図り、生徒の健康管理・安全に対する意識の向上を図る。また、大高メールを活用して保護者への注意喚起に努める。以上の事柄を今後も継続して取り組む。</p> <p>b 生徒が多様化している。そのような生徒が、気軽に教育相談が出来る環境を整備するとともに、初期指導を含め、学校全体での適切な対応を心がける。また、校内相談がなかなか出来ない生徒に対しては、個々の事例を鑑みながら適切な外部相談機関を紹介していく。以上の事柄を今後も継続して取り組む。</p>
<p style="text-align: center;">5 読書指導 保護者との連携</p>	<p>a 朝読書や古本市、図書館だより、図書掲示板などを活用し、読書習慣を定着させる。 目標：年間2冊以上の読書をした生徒 70%以上</p> <p>b 学校の情報発信を積極的に行う。 目標：大高メールの積極的配信とホームページの週1回以上の更新を目指す</p>	<p>a 年間2冊以上読書した生徒は61%で、昨年より2%、一昨年より5%減少している。昨年度まで授業短縮で実施した朝読書を、朝活の時間を利用した朝読書週間に変更した結果、朝読書への切り替えができず、読書の習慣に結びつかなかったためと考えられる。 ただし、「朝読書」に対する評価は生徒の中で高く、実施の要望も多いので、今後の「朝読書」のあり方について検討していきたい。</p> <p>b PTA活動の内容およびその情報提供について保護者の評価は96%で昨年度より3%増加、「とても満足」の項目も昨年度より5%増加しており、大高メールの積極的配信とホームページの週1回以上の更新の成果といえる。</p>	<p>a 今年度は、コロナ禍のため古本市等のイベントが実施できなかった。3密を避けた上で、図書館に足を運ぶ生徒数を増やしたり、年間の読書冊数を上げたりする工夫を図書委員と共に考えていく。また、「朝読書」に対する生徒の評価は高いので、読書を習慣づける取り組みになるように、学年会や教科会と共同して抜本的な「朝読書」のあり方を検討していく。</p> <p>b 情報発信を積極的に行っていくが、大高メールについては発信方法や内容を検討していく。</p>